

造船統計速報(平成 30 年 2 月分)

本速報は、造船の生産等実績の早期把握に資するため、基幹統計「造船造機統計」の造船調査対象工場のうち主要工場の主要項目の生産等実績について先にとりまとめ速報化したものである。確報値は追って公表される「造船統計月報」を参照されたい。

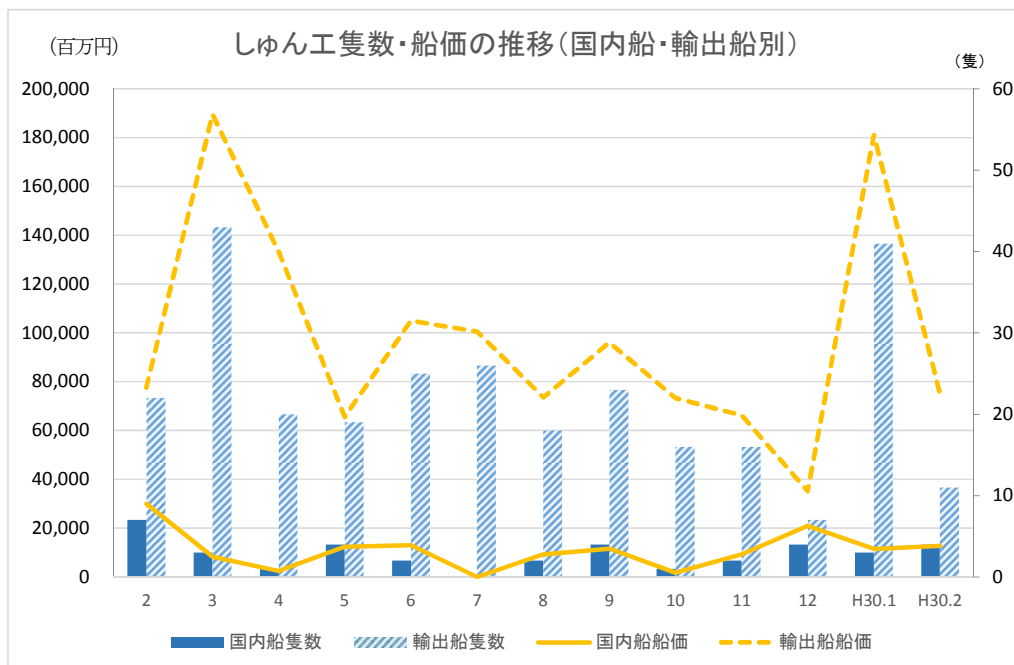
1. 概況

平成 30 年 2 月分の造船主要 44 工場の鋼船受注・建造実績は、受注 13 隻、54 万 2 千 G/T、起工 22 隻、107 万 8 千 G/T、しゅん工 15 隻（前年同月比は、65.9%減）、73 万 8 千 G/T（前年同月比は、22.5%減）、しゅん工船価 878 億円（前年同月比は、25.5%減）であった。

このうち、国内船のしゅん工実績は、合計 4 隻、16 万 G/T であった。内訳は、貨物船が 3 隻（鉱石兼ばら積み船が 2 隻、セメント専用船が 1 隻）、自動車航送船が 1 隻であった。

また、輸出船のしゅん工実績は、合計 11 隻、57 万 8 千 G/T であった。内訳は、貨物船が 5 隻（ばら積み船 3 隻（シンガポール、マーシャル諸島向け）、コンテナ船が 1 隻（パナマ向け）、鉱石兼ばら積み船 1 隻（香港向け））、油送船は 5 隻（一般油送船 2 隻（パナマ向け）、化学薬品船 2 隻（シンガポール、マーシャル諸島向け）、LNG 船 1 隻（バハマ向け））、その他船舶 1 隻（オランダ向け）であった。

鋼船修繕実績は、67 隻、工事金額 43 億円であった。



注1 近年の造船業の統廃合等による情勢の変化を踏まえ、実態に即した的確な速報値の公表を確保する観点から、平成 30 年 1 月分の速報から集計対象事業所を見直した。なお、集計対象事業所は、過去 3 年分（平成 26 年～平成 28 年）のしゅん工船価の確報値を平均化し、確報値全体の約 85% を占めるよう、上位から 44 工場を選定した。

注2 本速報における国内船及び輸出船は船舶の発注者の国籍により区分される。

注3 平成 26 年 1 月分調査より「受注」を調査事項として追加し、その結果を公表している。

2. 鋼船建造実績

(単位:隻, G/T, 千円)

用途別		受注		起工		しゅん工			
		隻数	G/T	隻数	G/T	隻数	G/T	船価	前年同月比
合計		13	542,250	22	1,078,347	15	738,353	87,775,229	74.5
国内船	小計	2	4,650	4	122,906	4	159,907	12,846,354	—
	貨物船	0	0	2	118,350	3	159,142	・・	—
	貨客船	0	0	0	0	0	0	0	—
	客船	0	0	0	0	0	0	0	—
	自動車航送船	0	0	0	0	1	765	・・	—
	油送船	0	0	0	0	0	0	0	—
	漁船	0	0	0	0	0	0	0	—
	その他	2	4,650	2	4,556	0	0	0	—
輸出船	小計	11	537,600	18	955,441	11	578,446	74,928,875	—
	貨物船	10	534,100	10	662,900	5	274,981	・・	—
	油送船	1	3,500	8	292,541	5	297,564	42,368,011	—
	その他	0	0	0	0	1	5,901	・・	—

3. 鋼船修繕実績

	隻数		工事金額(千円)	
合計	57	(10)	950,172	(3,399,467)
国内船	46	(10)	605,640	(3,399,467)
外国船	11	(0)	344,532	(0)

※ ()内は、排水トン表示による船舶で、外数である。

お問い合わせ先：
 国土交通省総合政策局情報政策課交通経済統計調査室
 電話：03-5253-8111 FAX：03-5253-1567
 03-5253-8348 (直通)
 担当：小林(内線：28-741) 大橋(内線：28-742)